

6.1 カリキュラムの編成

進捗状況報告

(1) 1～3. 2007年3月に新カリキュラム履修第1期生である卒業者を対象に行ったアンケート調査の結果をもとに、2008年度からコース専門科目の科目数と配当年次を若干調整した。2008年3月にも新カリキュラム履修第2期生である卒業者を対象にアンケートを行い、さらなる改善を検討している。アンケートによれば、コース制はほぼ肯定的な評価を得られているが、スパイラル制は認知度が低く、スパイラル関係にある科目間の授業内容の連携性が低いなどの問題が指摘されている。

4. 2008年度には、法学部責任開講科目の英語ネイティブ教員による授業として、英会話（特）Ⅰを6クラス、英会話（特）Ⅱを1クラス開講している（教員の実人員は4名）。今後の取り組みは、大学全体の方針を前提として議論してゆく。

5. 中国語は2008年度には8クラスを開講し、希望者の75%が履修できるようになった。朝鮮語は2008年度も3クラスを開講し、希望者全員が履修している。2009年度からスペイン語を1クラス開講する予定であるので、それ以後の選択必修言語科目の開講クラス数の検討には、スペイン語の選択希望者の動向も見極める必要がある。

6. 大学全体の方針に沿って検討を進めている。

7. 2008年度から地域政策コース（経法連携コース）に「地域インターンシップ実習」を設置し、2010年度から開講する予定である。

8. MDS履修登録者は、2008年3月卒業生では20名（うち修了者7名）であり、旧カリキュラム履修者に比して増加傾向を保っているが、ジョイント・ディグリー制度の利用者はなかった。この制度に関する説明は新入生オリエンテーションなどで行っているが、状況改善のためには、大学全体として説明の充実を検討すべきである。なお、この制度を利用して法学部に4年次編入学した学生は、2007年度3名、2008年度5名である。

(2) 上記のほか、生涯学習については、ライフデザイン科目群の履修を新入生オリエンテーションなどで奨励している。

学内第三者評価

新カリキュラム実施後の卒業生によるアンケート調査をもとに、コース制導入の効果について検証を行いながら新カリキュラムのさらなる改善を図ろうとしている。言語教育科目の選択必修科目である中国語、朝鮮語のクラス数の増加や2009年度からのスペイン語の開講など、学生のニーズに応じた語種の増加とクラス数の拡充に努めるなど、改善は進んでいる。2003年度の目標に設定されている、ネイティブ英語契約教員の活用などによる英語教育の充実については、英会話（特）Ⅰ・Ⅱとして実施されているが、大学全体の英語教育の取り組みとも連動させて、さらなる拡充が望まれる。地域政策コース（経法連携コース）で実施予定の「地域インターンシップ実習」にその成果が期待される。